

第 647 回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議題 —

テレビ番組

「日本のチカラ 里山から夢のピッチへ～小さな女子サッカーチームの挑戦～」

(放送日時：2019年5月5日(日)午前5時45分～午前6時15分)



令和元年 5 月 30 日

BSN新潟放送

第647回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 令和元年5月30日(木)午前11:00～

2. 開催場所 新潟市中央区 新潟放送 6F

3. 委員の出席

○委員側出席者 (敬称略・順不同)

委員長	古賀 豊	副委員長	佐藤 元
委員	石坂 智恵美	委員	小原 清文
委員	小島 良子	委員	三井田 由香
委員	渡邊 信子		

○審議番組事前レポート提出

委員 馬場 幸夫

○委員側欠席者 (敬称略・順不同)

委員	稲荷 善之	委員	高木 言芳
----	-------	----	-------

○放送事業者側出席者

社長	佐藤 隆夫	常務取締役	島田 好久
営業本部長	金田 博幸	編成局長	荻部 秀治
テレビ制作部長	吉井 一善	ラジオ放送部長	吉井 秀之

<説明員> 情報センター テレビ制作部 高橋 紘子

事務局 阿部 基行 (編成局テレビ編成部長)

4. 議題

1 報告事項 ・5月の番組について

2 審議番組 テレビ番組「日本のチカラ 里山から夢のピッチへ
～小さな女子サッカーチームの挑戦～」

(放送日時: 2019年5月5日(日)午前5時45分～午前6時15分)

5. 議事の概要

編成局長とテレビ制作部長・ラジオ放送部長からの2019年6月度番組報告に続いて、テレビ番組「日本のチカラ 里山から夢のピッチへ～小さな女子サッカーチームの挑戦～」(5月5日放送)について審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見～

- FC越後妻有の2人の選手の紹介から始まり、NPO法人越後妻有里山協働機構の取り組みなど興味深く視聴した。
どのような観点で、このテーマを選んだのかお聞きしたいと思った。
- 監督が選手などを勧誘する姿も見なかった。
- 地域密着・地域活性化の事例として視聴する事ができた。
- 目指すチームの姿が見えなかった。
サッカーに関する本気度について深掘りして欲しかった。
- 県外から選手が移住して頑張っている姿に感動した。選手たちが地域に溶け込んでおり地元で馴染んでいたのが応援したいと思った。
- 高齢者たちが元気で素晴らしいと思ったが、一方でこの高齢者がいなくなったらどうなるかと思った。
- 30分で何を伝えたかかったのかが、いまひとつわからなかった。
- 過疎地域に覚悟を持って移住して、何とか女子サッカーチームを作ろうとしている。
過疎地域に若い力が必要で、若い女性たちが地域に来ることが大事。表面的な事を時系列に伝えているだけだった。
- 問題点を指摘する番組で無かったので作りにくい部分があったと思うが、このプロジェクト自体に疑問を持った。女子サッカー人口が多いと言えないのに、なぜ女子サッカーだったのか？また、NPO法人の関わりが不透明で疑問に思う部分があった。

～新潟放送 情報センター 高橋紘子ディレクターから～

貴重なご意見を頂き、ありがとうございます。私自身が妻有地区の“大地の芸術祭”の活動に共鳴していて、2012年頃から芸術祭に関わる取材をしていました。そうした中でスポーツのジャンルでも活動が始まり、この新しい息吹を伝えたいと思い彼女たちの取材を始めました。そして彼女たちの挑戦が素晴らしいと思い、彼女たちの姿を視聴者に伝えたいと思っていました。また彼女たちを支える地域の力も発見する事ができたので、このテーマを選びました。

このプロジェクトにサッカーが選ばれた理由についてですが、当初は個人スポーツでウィンタースポーツのスキーなどの意見があったそうです。しかし、この地域で行うなら団体スポーツの方が望ましいとの意見が出て、最終的にサッカーになったそうです。

また彼女たちの本気度についてですが、キャプテンがメンバーを選ぶ条件として「サッカーをすることで地域貢献する事を考えている人でないと意味が無い」と話していて、本気に取り組んでいると感じていました。

また一部取材規制があり、監督の勧誘シーンなどの取材要請をしていましたが、取材を受けてもらえずに描けない部分がありました。

ご指摘を参考に、今後の番組作りに役立てていきたいと思っております。

本日はありがとうございました。

【文責・番組審議会事務局】